

◆現地情報：石川県地域密着ケア連絡協議会の事務局の情報をもとに

- ・ 支援がなかなか届かない地域や小規模な事業所に、物資の支援と人材支援を発災直後の1月2日から連日続けている。
- ・ これまでに大きな災害の体験をしてきた岩手県、新潟県、熊本県の地域密着型サービスの職員たちが駆けつけてくれた。現地情報を集めながら、臨機応変に継続的にチームを組んで支援にあたっている。
- ・ 物資が届き始めているようでも、その場・その事業所で必要とされているものが足りず、現地調達しながら必要なものを届けている。
- ・ 被災した事業所に支援に入ると、「自分たちよりもっと大変なところがあるから、そこへ」と言われることがなんどもある。もっと先へ行ってと促され、もっと先へ、もっと先へと入っていく。
- ・ 道路がズタズタ、積雪の影響もあり、物資や人の輸送手段の確保が大変。連絡会のメンバー、そして県外から応援に入ったメンバーの法人が、車両や運転手を出したり、レンタカーやガソリンを調達しながらあの手この手で現場に入っている。
- ・ 被災した事業所や避難所で支援を行うとともに、暮らし続けることが困難な高齢者を、県南部の地域密着型サービスの事業所で受け入れる調整を行っている。数人ずつ慎重に移送を行いながら、受け入れを行っている
- ・ なじみのない土地・場・人の中で暮らし始める一人一人が、少しでも安心して元気ができるように、職員たちがその人と向き合い、話しをよく聞きながらの関わりを続けている。
- ・ 日々の生活・支援のための災害時の制度や諸手続きの課題が大きく、受け入れた人たちが地元に戻る目途が全く立たない中で、今後の支援（体制）をどうするか、現場から提案をしながら市や県、厚労省との相談・協議も続けている。

(2024年1月25日時点の情報です)